NIE実践報告

1．タイトル：基礎学力を身につけ，自ら進んで学び，考える子どもの育成～ＮＩＥの実践を通して～

２．学校名

鹿児島県　鹿屋市立　鶴峰小学校

３．実践者名（代表者名）

池田　克俊

４．学年

１年・２年・３年・4年・5年・6年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

特別活動（委員会活動）・国語・社会　　４５名

６．単元（本時の学習課題）名

「新聞を読もう」

７．目標(狙い)

①実際に新聞をいろいろな角度で読み，感じたことや考えたことなどを交流しあう活動を行う。
②２つの記事を読み比べて，新聞の編集の仕方や書き方について気付いたことを交流する。

８．評価の視点

①報道記事の持つ構成に気づいたか。　②新聞について気付いたことを発表できたか。
③書き手が違うと内容や表現も違うことが理解できたか。　④得た知識と体験とを関連づけられたか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

年間を通して，学校全体（全児童と全職員）で「ファミリーフォーカス」に取り組んできた。委員会活動の中にも「放送・新聞委員会」を設置し，常に新聞と触れ合える日常をセッティングしてきた。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

【導入：５分】
①前時の学習を振り返る『新聞用語の確認』
②本時の課題を知る『２つの記事を読み比べて，気付いたことを話し合おう』
【展開：３５分】
③教科書の２つの新聞の写真や見出しを比べ，気付いたことを話し合う『ワークシート活用』『グループ学習』
④記事に対応する本文を読み，それぞれの写真・見出しと対応するのはどちらの文か発表し合う『必要に応じて語句の説明』『視点提示』
【まとめ：５分】
⑤新聞を読む学習を通して考えたことを発表し，これまでの学習を振り返る『ファミリーフォーカスへの意欲づけ』

11．児童・生徒の反応、感想・意見

A児童「見出し・リード文という言葉や，最初に結論が述べられていることを初めて知った」
B児童「記事の内容が同じでも，書く人が違えば記事も大きく変わるということを感じた」
C児童「もっと新聞を読み，ファミリーフォーカスが上手になりたいと思った」　等

12．成果と課題

【成果】
①新聞が身近な存在として育ちつつある。新聞のよさを発見し，日常生活に役立てようとする意識が育った。
②保護者と学校との連携がさらに深まった。また，家庭でのスキンシップや親子の会話も増えてきた。
【課題】
①読まされるのではなく自分の意思で読み，「活用する」意識への変革を目指したい。
②小・中連携の具体的な取り組みが見えてこない。